

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：奥村 康博

事業名 一般国道10号 <small>たかえ</small> 高江拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自：大分県 <small>おおいた</small> 大分市 <small>おしの</small> 鶯野 至：大分県 <small>おおいた</small> 大分市中 <small>なかほんだ</small> 判田		延長 2.8km
事業概要 高江拡幅は、交通混雑の緩和や交通安全性の向上、救急医療活動の支援、安全な歩行空間の確保を目的とする事業である。		
H26年度事業化	S47年度都市計画決定 (H17年度変更)	H28年度用地着手
全体事業費 約110億円	事業進捗率 約9% <small>(平成31年3月末時点)</small>	供用済延長 0.0km
計画交通量 40,900～41,200台/日		
費用対効果分析結果 B/C <small>(事業全体)</small> 2.3 <small>(残事業)</small> 2.8	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 80/98億円 事業費：73/91億円 維持管理費：6.8/6.8億円	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 223/223億円 走行時間短縮便益：208/208億円 走行経費減少便益：8.4/8.4億円 交通事故減少便益：6.7/6.7億円
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=2.0～2.5（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.1～2.5（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.1～2.3（事業期間±20%）		
【残事業】交通量：B/C=2.5～3.1（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.6～3.1（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.6～2.9（事業期間±20%）		
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・前後を4車線区間に挟まれたボトルネック区間となっている。ボトルネック区間の解消により走行速度の向上など交通混雑の緩和が期待される。 ②交通安全性の向上 ・交通渋滞が緩和され、交通安全性の向上が期待される。 ③救急医療活動の支援 ・救急搬送時間の短縮が図られ、救急医療活動の支援が期待される。 ④安全な歩行空間の確保 ・狭い歩道を自転車と歩行者が錯綜するなど歩行者の安全性に不安も多い。自転車と歩行者の分離により、歩行者の安全性向上が期待される。 ⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減(CO2, NO2, SPM削減)		
関係する地方公共団体等の意見 大分市長により、早期整備の要望を受けている（平成31年1月）		
県の意見 「対策方針（原案）」のとおり、事業を継続し、早期完成をお願いしたい。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

大分市の人口は減少傾向にあり、一世帯あたりの自動車保有台数は大分県平均よりも低いものの九州全体と同程度となっている。交通量は、平成22年の高速道路無料化社会実験の影響により一時減少したものの、平成27年は増加している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成26年度に事業化、用地進捗率約23%、事業進捗率約9%（平成31年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

電線共同溝整備の追加

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。